



FLY ANAY! PROJECT



- for all the disabled youth with potentials -

➔ 障害をもつ若者の「最初の一歩」を応援する、途上国体験プログラム

フィリピンの言葉で、「まずは飛んでみよう！」を意味する”Fly Anay(フライ・アナイ)”。
Fly Anay Projectでは、海外に出ることを夢見ながらも、まだ海外に出たことがない、
障害をもつ18歳～25歳までの若者に対し、フィリピンの障害者との交流プログラムを提供。
本人が希望する将来の実現に向けた「最初の一歩」を、フィリピンの障害者と共に、お手伝いします。

「最初の一歩」さえ踏み出せれば、あとは自分で飛べる力が、湧きあがってくるはずだから。
障害をもつ若者が、その可能性を發揮し、明るい将来を描ける世界をめざしてー。



➔ Fly Anay! Projectの実施体制

「私のカラダこんなだから、海外は無理じゃないかって…」

沖縄には、海外に出ることを夢見ながらも、さまざまなバリアを前に踏み出せずにいる若者たちがいます。
青年海外協力隊経験者等が運営するFly Anay Project事務局は、彼らと一緒に必要なサポート(介助者や手話
通訳など)を確認、希望に応じ彼らの”First Fly”に同行、ユースたちの成長を促しながら旅の実現を目指します。

また、滞在先であるフィリピンでは、参加者と同様の障害を経験してきた20～30代のフィリピン人が、
「ぴあ・メンター」となり、滞在中、彼らの体験をサポートしていきます。

➔ 現地プログラムの一例 (※全て英語で実施されます)

- ・現地障害者によるピアカウンセリング
- ・農村部の障害者グループの活動に参加
- ・現地の小学生との英語アクティビティ
- ・4泊5日のホームステイ などなど…

Fly Anay! コース



ぴあ・メンター

現地コーディネーター

同行サポーター

介助者・手話通訳等



【フィリピンデスク】
NPO法人 イロイロ障害者協会
※青年海外協力隊が活動中



【沖縄デスク】
NPO法人 レキオウイングス
※沖縄県出身青年海外協力隊0B・0Gで構成

Fly Anay Project 事務局

➔ お問い合わせ、サポート方法等については、裏面をご覧ください。

➔「Fly Anay サポーター」になりませんか？

～障害をもつ若者の、「当たり前」にできるはずの経験の実現に向けて～

1. Fly Anay サポーターの支援

2. 必要なサービスの実現

3. Fly Anay コース「最初の一步」の実現



介助料や手話通訳料など、
障害をもつ若者が必要と
するサービスをサポート



介助者・手話通訳等



開発途上国に行ってみたい、でもー。

もし、介助者がいなければ、行きたい場所にも移動することもできず、食べてみたいものに手を出せないとしたらー。

もし、手話通訳がなければ、旅で出逢った人と、心に残るコミュニケーションができないとしたらー。

「Fly Anay サポーター」の皆様をお願いするのは、障害をもつ若者が、当たり前にはできないはずの経験を、当たり前
前に経験するために必要なサポートを実現するための費用(介助料や同行者の旅費、手話通訳料など)です。
彼ら自身の旅費は実費負担、Fly Anay Projectに関する運営費は参加者からの登録料で賄われます。

ご支援は、一口1,000円から受け付けております。ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

【お振込先】

沖縄銀行(0188)

鳥堀支店(141)

口座番号:1390471(普)

特非)レキオウイングス 理事 安和 朝忠

Fly Anay! コース 第1期派遣予定者のメッセージ



比嘉 美紀
(みーきー)

沖縄県沖縄市在住
25歳

2009年。当時、大学4年生だった私は自分の将来に迷い、悩んでいた。語学と外国の文化などに関心があり国際関係の学科に在籍していたが、私自身も身体に障がいがあるため福祉も学んでいた。私は、学科の同級生が留学していく話や様子を見て、いつも羨ましく思っていた。しかし、「障がいを持っているのに福祉を勉強しないで英語をやるの?」と言われることも度々あり、私は、自分が英語を学んできた意味を見失いかけて、自信をなくしていた。

そんな時、大学の先輩が、障害を持ちつつ国際協力の仕事に就いている曾田さんを紹介してくれた。ある日、曾田さんから届いた一通のメール。私は、一瞬自分の目を疑いながら内容を確認するように読み返した。「よかったらフィリピンに来てみない?」

今回、フィリピンに行くことで、私のような障がい者が沖縄、日本にとどまらず世界にもいることを再認識し、グローバルな視野を持てるようになりたい。また、現地の人々と実際に触れ合うことで、私なりにではあるけれど…似た境遇の仲間にも勇気と希望を与えられるような人、そしてその経験を多くの人に話して想いを伝えられる人になりたい。

“Where there is a will, there is a way.(意思あるところに道は開ける)”
この旅が私と世界をつなぐ最初の一步になりますように…。

➔ お問い合わせ先

FLY ANAY PROJECT 事務局

担当(フィリピン): 曾田 夏記 (JICAボランティア・青年海外協力隊/平成23年度3次隊/フィリピン)

担当(沖縄): 上原 志乃 (NPO法人レキオウイングス・沖縄県立看護大学1年次)

Email: natsuki.soda@gmail.com